



龍江の里

学校教育目標

ぼくたちが育つ龍江 これからもずっとふるさと



【アップルキッズの森集会～摘果作業】 5月15日

学校にりんご園がある学校。まるで絵本の中の話のようです。

さて、今年度のりんご園学習が始動しました。美しい花の観察、そして摘果作業。これらは学校りんご園管理部の皆さんによる年間通したお支えがあって実現している学習活動です。30日～40日に1回の草刈り、消毒、剪定。これまで長きに渡って支えていただいています。消毒は、以前は年に10回程度だったものが気候の変化により15回以上になっているそうです。剪定は片付けの人手がとても足りないそうです。「子ども達の喜ぶ笑顔のために」「龍江小学校の宝を守るために」陰で支えてくださっている方々がこんなにたくさんいるのだということが「わかる」子どもたちを育てるのが学校の役割だと思っています。今年は昨年の大豊作と比べると収穫量は少ない見通しのようですが、「自然のものが私たちに教えてくれること」は収穫の多さ以上に大切なことです。専門家の皆さんや支えてくださる地域の方々と共に、子ども達にとって豊かなりんご園学習となりますよう、保護者の皆さまにもお声がけをさせていただくことがあるかと思います。ご協力お支えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

【「探究」がある授業を目指して】



写真は、授業中、思わず顔を寄せ合って何かを見ている子ども達を上から撮りました。思わずのめり込む一瞬。子ども達にとって「どうしてもそれをせずにはおられないような学び」や「思わず自分の体が前のめりになってしまうような『どうして?!』にあふれる時間」があれば、子ども達は

「学校は楽しい!」と思うでしょう。そんな授業を一つでも多く子ども達へ届けようと、職員一同、願い努めてきておりますが、授業は深淵であり遠き遠き道のりです。ご家庭でのお子さんの言葉や様子をいつでも気軽に学校までお寄せいただければ幸いです。

詩集より

すきになると

すきになるのがぼくはすき
だれかがぼくをきらいでも
ぼくはだれかをすきでいたい
すきなきもちがつよければ
きらわれたってすきでいられる

なにかをすきになるのもぼくはすき
すきになると もっとそれをしりたくなる
しればしるほどおもしろくなる
それがうつくしいとおもえてくる

だれかをなにかをすきになると
ここからだがあつたかくなる
かなしいこともわすれてしまう
だれともけんかをしたくなくなる
すきなきもちがぼくはすき

(谷川 俊太郎)

こんにちは、竜峡学園です。

昨年度よりスタートした学園構想ですが、令和8年度もこれまでの取り組みを継続・発展させながら、よりよい学園づくりをめざして活動してまいります。

学校運営協議会

5月21日（木）には、第1回竜峡学園学校運営協議会が開催されました。会の中では、今年度から本格的に始まる特設教科「みらい創造科」について説明を行いました。

「みらい創造科」は、飯田市が独自に設置した教科で、地域の特色を生かした学びを進めていくものです。子どもたちの「やってみたい」という思いを大切に、子ども自身が主体的に学びを進めながら、ワクワク、ドキドキし、夢中になれる学びをめざしています。

後半のグループ討議では、「みらい創造科」に関連して、地域の人や場所の中で子どもたちがワクワクできそうなことや、自分たちが子どものころに楽しかった体験などを共有しました。

今後は、各校で「みらい創造科」の実践を重ねていきます。その様子についても、改めてお伝えしてまいります。



合同職員会議

5月27日（水）、第1回竜峡学園合同職員会議が開催され、各校の職員が川路小学校に参集し、研修や学年会等を行いました。

職員研修では、南アルプス子どもの村小学校・中学校長の加藤博先生を講師にお迎えし、「まずは子どもが輝くことから始めよう ― 探究学習で学びの原点へ ―」と題してご講演いただきました。講演では、「子どもは信頼してよい、任せてよい」という子ども観を大前提に、みらい創造科を進めていく上で大切にしたい考え方について、多くの示唆をいただきました。

また、みらい創造科に限らず、私たち教職員が子どもたちとともに学びを深めていくための道標となる考え方や実践のヒントも数多く示していただき、大変有意義な研修となりました。

「子どもを幸せにしよう。すべてはそこから始まる。」という加藤先生のお言葉を胸に、竜峡学園の子どもたちの幸せのため、今後も教職員一同、研鑽を積んでまいります。

